

事業所名	ふたふあきつず	支援プログラム	作成日	2025年3月1日
法人（事業所）理念	当法人は、「利他の心で地域貢献をする」の精神のもと、相手の事を想う気持ちで仕事を誠実に行うことで、利用者様1人1人に「安心」や「幸せ」を提供し、職員の幸福の追求と、地域との共生により社会に貢献することを理念とします。			
支援方針	日々を大切にし、友人や家族、地域、職員など、人との関わり合いの中で豊かな感性を育み、たくさんの愛を感じながら過ごすことができるよう支援します。			
営業時間	9時	30分から	16時	30分まで
	送迎実施の有無	あり	なし	
支援内容				
本人支援	健康・生活	バイタルチェックや保護者からの申し送りと全身状態の様子を把握、共有します。その上で、当日の過ごし方や支援の内容を適宜判断して対応します。		
	運動・感覚	粗大運動：シーツプランク、ボールプール、エアトランポリン、巧技台などの身体を大きく使う遊びで普段刺激が少ない神経や筋肉、骨などに刺激を伝えていきます。 感覚遊び：スライムや粘土、タッチケアなど様々な感触や温度を持つ教材で手先や足先などを中心に刺激を行い、過敏・鈍麻の改善や感覚の体験を支援します 音楽活動：季節や行事に応じて、今月の歌、ダンスを設定し、取り組むことで、音を感じて楽しみながら、機能向上できるように支援します。		
	認知・行動	自分の好きなもの、興味があることを知り、そこから楽しみながら成長発達を行えるように働きかけます。 初めて見るもの触れるもの、感じることを体験することで、五感の認知力を高め、更に経験を積むことで本人の世界を広げることができるように支援します。 歌や散歩など遊びの中に季節を感じる習慣をつけることで、生活の楽しみを増やせるように支援します。 本人が（活動やケアなど）今から行おうとすることを理解して、主体的に行動できるように言葉掛けやツールを用いたコミュニケーションを行います。		
	言語 コミュニケーション	本人の意思表示を見逃さないよう、職員間で情報共有し、1人1人のサインを理解します。 本人が理解できるツール（絵カードや声掛けの場所、スピードなど）がある場合はそれを用いることで、自分の気持ちが伝わることの嬉しさや楽しさを感じてもらい、コミュニケーションの促進に繋がるような支援をします。		
	人間関係 社会性	まず、本人が保護者から離れる、環境に慣れる、職員や集団、お友達との関わりに慣れることを目標に支援します。 職員やお友達とたくさんふれあい、一緒に共生していく中で信頼関係を深めることができますように支援していきます。 事業所内はもちろん、交流会やお出かけなど様々な人と関わる機会を設けることで、社会経験を積み、社会性を身につけられるように支援します。		
家族支援	送迎時の会話、電話連絡、LINE連絡等で連絡や相談、気軽に話をしやすい関係作りをしていきます。 家族行事を開催することで、保護者およびきょうだい同士が交流できる機会を提供します。	移行支援	ご家族とのコミュニケーションを大事にし、離れてても大丈夫だと思えるタイミングと信頼関係を築ける努力します。 小学校入学時には、学校の情報をご家族にお知らせするだけではなく学校との情報共有、引継ぎ資料の作成など学校の支援計画にも協力します。 他事業所へもご家族の許可を得て情報共有や助言等の協力をていきます	
地域支援・地域連携	相談支援事業所、関係医療機関、在宅サービス関係者、学校、市町村などと適宜情報の共有を行い、必要に応じて担当者会議を呼びかけ、参加します。	職員の質の向上	毎月、さまざまな分野（看護、リハ、療育など）の研修を実施 B C P、虐待防止、ハラスメント、感染対策などの研修会や訓練を定期的に開催	
主な行事等	日常の行事としては、季節に応じて、書初め、節分、ひな祭り、バレンタイン、お月見など。 家族参加可能な行事としては、夏祭り、お楽しみ会、ゆめ水族園、プラネタリウム鑑賞会など毎年楽しんでもらえるような行事の企画、開催をしています			